

「追悼号刊行にあたり」

理事長・学長 麻 生 隆 史

学校法人麻生教育学園・九州情報大学、前理事長・前学長・学園長であった故麻生維美は、令和六年一月十九日九十四才の生涯を閉じました。

教育一筋九十四才まで大学教育に当たりました。麻生教育学園の又の名を「紫苑の学び舎」と呼んでいます。それは原野に生存している野菊に似て薄紫の花をつける学名「紫苑草」・英語名「アスター」、又の名を「思い出草」と云い、多年生草木で生花に使われる上品な姿をしています。

人作りの学園としての麻生教育学園は英知的文化人たる前に温かい人間性を、科学的技術者になる前に豊かな人間性をモットーとして建学の精神を具現する教育の場を作りました。そして、校訓は「至心」とし「誠心」をあらわし、「紫苑」は「四恩」に通ずるの思いから「一つ」親先祖の御恩、「二つ」教師先生の御恩、「三つ」社会・国家の御恩、「四つ」神・仏の絶対なる御恩、に報いる人間であらねばならないと説きました。こうした教育の場に來た学生を具体的に云うならば、「一つ」温かい豊かな人間、「二つ」美しい人間、「三つ」うるおいのある人間、「四つ」やる気の充分ある人間、「五つ」奉仕の出来る人間、としての精進努力、つまり校訓である「至心」をもって貫く人間に作りあげるべく専念しているのであります。「容は心^{シオン}をよび、心は容^{カタチ}をよぶ」の実践行動のもと、我から出づるものは慈悲慈愛、我から行ずるものは信頼と報恩感謝、これこそが学園に学ぶ学生の姿であって欲しいものであります。我が灯す一つの光は暗く、身の廻りを照らすにすぎないが、これが幾千、幾万と集まれば世界を照らすあかりとなることを忘れないでください、と生前の学園長は常日頃からこの信条で教育に当たりました。

我が学園グループも大学、短期大学、小学校、幼稚園と多くの学校を設置開校し充実発展をとげました。近く平成十年度には、九州情報大学の開学時の理事長・学長として今日の大学の礎を築きました。故人の精神を引き継ぎ、あとは私達がその伝統を守るべく努力して参る覚悟であります。

前身の麻生学園は創設以来三十八年、一貫して前にも申し上げました、「至心」をもって事に当たる人作りを建学の精神にかかげ、これを基幹として教育に専念し、学園の発展・充実に精魂を傾けてまいりました。本学は「産業界」に期待される学生を育成し、社会が求める人材の養成につとめて参りました。

経営の基礎から経営管理に必要な情報を的確に処理し得る能力、さらにコンピュータの専門的知識・技能の習得と各種資格の取得や特に英語力の強化、優れた国際教養人の養成を目指しています。学生は積極的に学業に、研究に取り組み、自覚し、学生としての本分の到達を目指し成果をあげるべく努力しているところであります。ここに今回、前理事長・前学長・学園長の追悼記念の研究論集第27巻が刊行されるにあたり、本学各教員の着実な研究成果が教育界・産業界の成果につながれば幸いです。